

## 2014 年度点検・評価シート

## I 評価項目・担当部局

対象部局	環境創造学部環境創造学科 Faculty of Social- Human Environmentology
評価基準 4	教育内容・方法・成果
中項目 4-2	教育課程・教育内容 【自己評定 A】
点検・評価項目(1)	4-2-1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
評価の視点	必要な授業科目の開設状況
	順次性のある授業科目の体系的配置
	専門教育・教養教育の位置づけ
点検・評価項目(2)	4-2-2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
評価の視点	学士課程教育に相応しい教育内容の提供
	初年次教育・高大連携に配慮した教育内容
	キャリア教育の実施状況
点検・評価項目(3)	4-2-3 国際化に対応した教育を行っているか。
	教育課程における国際化の推進
	学生の国際交流（交換留学、海外研修等）の推進
点検・評価項目(4)	4-2-4 教育課程の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

## II 【点検・評価項目ごとの現状説明】

4-2-1	<ul style="list-style-type: none"> <li>本学科は、社会科学を基礎に置き、環境問題や生活問題を分析し、実践的で創造的手法を身に付けることに主眼をおいている。初年次からカリキュラム・ポリシーに基づき授業科目を適切に開設している。</li> <li>2013 年度から新カリキュラムが開始され、諸資格対応の科目、実践に重きを置く科目を増やした。そして都市環境・福祉環境・環境マネジメントの各コースの履修モデルを明らかにして、順次性のある科目の取り方を学生に指示している。</li> <li>2013 年度から開始した新カリキュラムにおいては、内外研修の選択肢を増やし一層現場主義・コミュニケーション主義・実践主義が身に付くように配慮した。</li> <li>近年 2 年次教育の重要性が認識されているが、本学科では 2 年次からゼミナールに入り、専門性をもった学修に移行できる利点がある。ゼミナールで学習意欲を増加させ、キャリア形成への展望を築けるように教員と学生、学生同士の信頼関係を深めている。</li> <li>1～2 年次の基礎教育科目中の必修科目 24 単位、専門科目の必修科目 6 単位、自由科目 4 単位の計 34 単位を修得していないと、3 年次に進級できない。外国人留学生は、基礎教育科目中の必修科目 16 単位、留学生必修科目 6 単位、および留学生選択科目 2 単位と専門教育科目の必修科目 6 単位、自由科目 4 単位の計 34 単位を進級要件としている。</li> <li>2013 年度新カリキュラムにおいては全学共通科目から 12 単位必修で、語学科目は英語が 8 単位必修で、さらに第 2 外国語を選択としてとることができる</li> </ul>
4-2-2	<ul style="list-style-type: none"> <li>2013 年度導入の新カリにおいて学士課程教育に相応しい教育内容を提供している。</li> <li>全学的な理念・目的と本学部の理念・目的との連繋が図れるようカリキュラムや教育内容を微調整する。具体的には初年次教育の段階（「環境創造学入門講義」「環境創造学入門ゼミ」等）で、全学的な理念・目的と学部の理念・目的との連結を意識した授業を展開している。「大学の学び」とは、単に知識の習得に終わらず、学生一人ひとりの問題発見と主体性にかかっておりチームワークによって論理的思考を高めていくプロセスや対話力を培っている。</li> <li>インターンシップ教育や「キャリア形成と人生」をはじめとする科目を新カリにおいて開講。PBL（問題解決型）授業を展開し、振り返りも大事にしてインターンシップ教育の発表会を行い、学生が主体的に取り組んでいる。</li> <li>留学生のための就職支援活動についても講師を依頼して有志教員で現状と対策を認識している。</li> </ul>
4-2-3	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外英語研修、内外研修を授業で設けており、かつ 2013 年度には交流校派遣留学生 1 名と奨学金留学生 1 名の合計 2 名の留学生を出すこととなった。「内外研修 A」では「ドイツ・環境保護のまちづくり事情研修」を夏休み中に実施している。</li> </ul>
4-2-4	<ul style="list-style-type: none"> <li>カリキュラム・ポリシーに基づき基礎科目、専門科目、全学共通科目、言語科目をバランスよく配置することに関しては、教務委員会が検証し、議事録を公開するとともに、教授会で詳細を報告している。教務委員会が責任主体となり、月 1 回の教務委員会を開催し審議した結果を、学部教授会で報告承認事項として報告し、最終的には教授会で決定している。</li> </ul>

## 【効果が上がっている事項】

4-2-1	<ul style="list-style-type: none"> <li>2013 年度から新カリキュラムを実施し、全学共通科目の必修単位数を 4 単位から 12 単位とした。</li> </ul>
4-2-2	<ul style="list-style-type: none"> <li>新カリキュラムでは、初年次教育の基盤として、環境創造学入門ゼミ、情報活用能力、環境問題英語、およびコミュニケーション英語を位置づけ、基礎学力の確認、情報教育、語学教育、プレゼンテーション能力の向上を重視している。</li> <li>高大連携に関しては、東松山開講科目である「国際金融 I、II」、「環境経営 I、II」を開放科目としている。</li> </ul>

	・1年生の段階でキャリア形成に関心を持たせるように、「キャリア形成と人生Ⅰ、Ⅱ」を開講している。さらに、情報活用能力では、ITパスポートの受験、検定英語では、TOEICの受験、環境学入門ではエコ検定、および福祉住環境講座では福祉上環境コーディネーターの受験に対応した授業を行っている。
4-2-3	・2010年までは海外への留学を希望する学生が少なかったが、近年志願者が増加し、毎年奨学金留学生を送り出している状態である。さらにこれまで応募のなかった協定校留学生も出ている。
4-2-4	・毎年、非常勤講師が退職あるいは交替の際に、教務委員会でこれらの教員が担当していた授業について検証し、新年度に開講するかしないかも含めて検討している。またこうしたプロセスについては教務委員会議事録で公開すると同時に、教授会の教務委員会報告でも明示している。

【改善すべき事項】

4-2-1	・社会的ニーズに基づき、より体系化されたものとして、2017年度新カリキュラムを編成していく必要がある。
4-2-2	・キャリア教育の観点から、資格試験(TOEIC、ITパスポート、エコ検定、留学生に対しては日本語検定1級など)の受験状況(受験者数、)を把握し、これを増やす必要がある。
4-2-3	・グローバル化に対応した授業が複数開講されているが、これらの授業(海外での研修授業(授業名:「内外研修」)などの参加者が少なく、増やしていく必要がある。
4-2-4	

本項目の根拠資料(データ類、裏付けとなる資料)

教務委員会議事録および教授会議事録 奨学金留学応募者数(うち合格者数)(2010年度0(教員からの推薦を受け1)、2011年度6(合格者1)、2012年度3人(合格者1)、2013年度3名(合格者1) 協定校留学応募者数(うち合格者数)(2010年度0、2011年度0、2012年度1(0)、2013年度1(1))
---

《指標データ》

データ集(表6)開設授業科目における専兼比率

(表7)卒業判定

(表8)大学院における学位授与状況

(表9)就職・大学院進学状況

(表10)公開講座の開設状況

(表11)学生の国別国際交流

(表12)海外への派遣学生数

(表13)国別留学生数(学部別)の経年変化

(表14)教員・研究者の国際学術研究交流

(表15)国際交流協定締結機関数・締結国数

(表16)カリキュラムの編成や体系等を常に検討する委員会の有無と開催頻度

(表17)各年次の履修登録単位数制限の状況

(表18)卒業要件単位数に占める比率

(表19)履修者数規模別の授業コマ数

(表20)学生の授業評価の実施率(大学、学部別)

(表21)学生の授業評価において「当該授業が主体的な参加を促す授業であったかどうかに関する質問(Q13)」に対する肯定的な回答比率

(表22)学生の授業評価における当該授業への満足度に関する質問(Q20)への肯定的な回答比率

(表23)学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問(Q8)への肯定的な回答比率

Ⅲ 【達成目標】目標の進捗状況は、「S:完全に達成」「A:概ね達成」「B:やや不十分」「C:不十分」で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの	評価				
			2014	2015	2016	2017	2018
中期目標 (2014～ 2018)	4-2-1 新カリキュラムの作成と17年度導入	新カリキュラムの承認・導入 教務委員会議事録、教授会議事録 キャリア科目の充実 目標:年間15科目以上					
	4-2-2 キャリア教育の充実	資格試験受験者数の増加 資格試験受験者数年間300名以上					
	4-2-3 グローバル教育の学生への浸	・グローバル教育対応の授業数の増加					

	透	指標：今後導入予定新カリキュラムにおけるグローバル教育の授業数の増加					
		・グローバル教育に対応した授業（「内外研修」、「海外語学研修」、TOEIC 英語等）の受講者数の増加 目標：グローバル教育に対応した授業の受講者数 100 名以上	→				
14 年度 目標	4-2-1 新カリキュラムの作成と 17 年度導入に向けて	旧カリキュラムの検証 教務委員会議事録、教授会議事録	→	A			
	4-2-2 資格試験受験者数の把握とデータ化 ※現在データが存在せず	・資格試験受験に関するアンケートの実施と集計 教務委員会議事録、教授会議事録	→	B			
	4-2-3 グローバル教育に対応した授業の受講者数の把握	対応した授業の受講者数データの作成 教務委員会議事録、教授会議事録	→	B			